

(様式)

平成25年度 津山市立喬松小学校 学校評価書

校長 片山 晴夫



1 自己評価

I 評価結果

①確かな学力の定着：問題解決学習が定着しつつある。家庭学習の時間は意識でき、習慣も付きつつある。体験的な学習は、積極的に校外学習や地域の方の協力を得ながらの意欲を喚起する学習が進められた。

②心をはぐくむ活動の充実：互いによいところに目を向ける取組の中で、協力や思いやりの気持ちも育ってきているが、適宜指導が必要である。

③たくましい心と体の育成：あいさつは一人一人の声が聞こえるあいさつになりつつある。学年遊びや仲よし（縦割り）班活動で遊びや運動を通してバランスよい動きにつながっている。

II 分析・改善方策

①今求められる学力を教師が理解し、学習意欲を喚起しながら45分の授業の充実を図る。

②「相手の気持ちを大切に言動」「粘り強い気持ち」など柔軟で強い心を育てる取組をする。

③あいさつをはじめ、生活面・学習面を振り返り自分を新しくする取組を推進する。

(以下 様式1参照)

2 学校関係者評価委員会

最終評議員会 平成26年2月19日開催 (原則は学期1回開催)

福島 滋 (津山人権推進協議会委員・坪井老人会副会長)

眞家 規善 (津山っ子を守り育てる会久米ブロック代表・津山市青少年指導員副会長)

久宗 旬子 (大井西婦人会会長)

竹内 浩美 (喬松小学校PTA会長)

3 学校関係者評価

・教師の話や指示をよく聞き、落ち着いた雰囲気の中で学習ができている。自分の考えをもったり、伝えたりする力の育成は来年度も引き続き研究を深めてほしい。

・子どもたちは素直で聞き分けがよい。オープンスクールでは、子どもたちと地域の方々が直接触れ合うことができてよい。

・下校時出会う子どもたちは、よくあいさつができています。

・テレビ視聴・家庭学習時間・読書等はこれまで以上に家庭と連携をとる必要がある。

(以下 様式1参照)

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

1 確かな学力の定着や向上に向けて

・言葉(書く、聞く、話す)の力と数感覚や計算の力の定着を進める。

・進んで、考え話し合える授業づくり(思考・観加 観)を進める。

・読書活動を推進する。

・家庭学習の充実を図る。

2 心をはぐくむ活動の充実に向けて

・一人一人のよさを認め合う集団づくりを進める。

・相手の気持ちを考えた言動がとれる心を育成する。

・一生懸命なそうじや手伝い(観活動)ができる態度や気持ちを育成する。

3 たくましい心と体の育成

・気持ちのよいあいさつを推進する。

・夢や目標に向かって努力する(自分で決めて続けてやり抜く)態度や気持ちを育成する。

・時間を守って黙って素早い行動ができるようにする。

・望ましい食習慣と運動(体力づくり)の習慣の定着を図る。

4 個に応じた特別支援の充実

・児童理解の徹底を図る。

・特別支援の観点を活かした指導(観観支援等)を推進する。

・学習支援が必要な児童への学習保障の場や時間を設定する。

5 安全教育と安心のある環境づくり

・児童の安全への意識の高揚を図る。

・学校内外の安全環境の整備を進める。

・地域や保護者の声に耳を傾け、学校の情報を広く発信し 開かれた学校づくりを推進する。